

支持療法を確認し安全な化学療法の施行に貢献した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、必要な支持療法を確認することで、安全な化学療法の施行に貢献できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶原疾患の治療目的で入院中の患者

施行中の化学療法：エプキンリ療法
Day22（4回目）の投与を予定



Cさん

明日エプキンリを投与予定のCさんについて確認があります。エプキンリによるサイトカイン放出症候群予防の薬剤を確認しますと、抗ヒスタミン剤（ポララミン注）と、投与日の副腎皮質ホルモン剤（水溶性プレドニン）は処方されておりますが、解熱鎮痛剤（アセトアミノフェン錠）と投与翌日以降の副腎皮質ホルモン剤（プレドニゾロン錠）が処方されていないようです。



医師

ご確認ありがとうございます。すぐに処方しておきます。



薬剤師

その後、速やかにアセトアミノフェン錠とプレドニゾロン錠が処方された。エプキンリ投与後、サイトカイン放出症候群の発現なく経過した。

化学療法施行時に必要な支持療法を確認することで、安全な化学療法の施行に貢献できた。

エプキンリ皮下注の
サイトカイン放出症候群について、
2024年3月に製薬企業から
適正使用のお願いが発出されております。

<https://www.pmda.go.jp/files/000267776.pdf>

■本剤投与時には、以下の点にご留意ください。

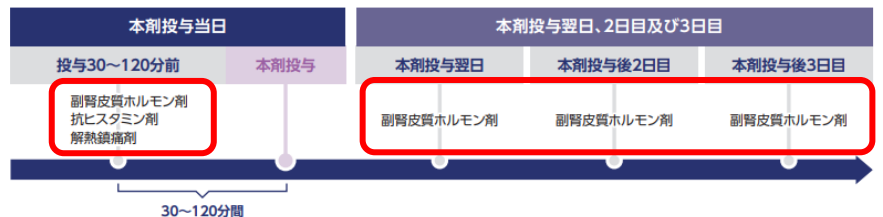
- 特に治療初期は入院管理等の適切な体制下で本剤の投与を行ってください。
- サイトカイン放出症候群に対する前投与薬の投与等の予防的措置を行ってください。
- 観察を十分に行い、異常が認められた場合には、製造販売業者が提供するサイトカイン放出症候群管理ガイドランス等に従い、適切な処置を行ってください。

CRSを軽減させる薬剤の投与

本剤投与によるCRSを軽減させるため、本剤投与前後に薬剤投与を行います。

1サイクル目(1、8、15及び22日目の本剤投与時)

本剤投与30～120分前に副腎皮質ホルモン剤、抗ヒスタミン剤、解熱鎮痛剤を投与します。また、本剤投与翌日、本剤投与後2日目及び3日目に副腎皮質ホルモン剤を投与します（副腎皮質ホルモン剤の投与は、合計4日間行います）。



CRSを軽減させるための薬剤の推奨用量

本剤の臨床試験時のプロトコルに基づき設定しました。

副腎皮質ホルモン剤	プレドニゾロン*100mg 経口投与又は静脈内投与、もしくはそれと同等の薬剤
抗ヒスタミン剤	ジフェンヒドラミン*50mg 経口投与又は静脈内投与、もしくはそれと同等の薬剤
解熱鎮痛剤	アセトアミノフェン*650～1,000mg 経口投与

*CRSを軽減させるための使用に対して国内未承認です。